

授業科目	福祉臨床心理演習Ⅲ				単位	2		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	WE31408J		
開講年次	3年	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-2 DP3-1 DP3-2 DP5-1 DP5-2			
担当教員	杉本 有紗							
授業概要	<p>福祉臨床心理学は、福祉と心理臨床の接点における臨床の知を扱う学問であり、1つは福祉のフィールドで仕事をする心理専門職の実践を研究対象とする。2つには福祉専門職の実践における臨床心理学的視点や技法の導入について研究するものである。さらに、福祉専門職、心理専門職、その他の専門職のコラボレーションについても検討対象である。本学の福祉臨床心理演習では、とくに福祉専門職が用いることができる臨床心理学的援助の知識と技法を学ぶことに重点を置いている。</p> <p>実務家教員として(高齢者施設における臨床業務)、実務に必要な基礎的知識および技法を解説する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1. 高齢者、認知症高齢者の心理的理解                      (1) 高齢期の発達の課題、高齢者、認知症高齢者の心理的特徴を説明できる。(DP1-1)                      (2) 高齢者、認知症高齢者に積極的な関心を持つことができる。(DP3-1)</p> <p>2. 高齢者、認知症高齢者への心理アセスメント、心理療法について                      (3) 対象者に適した心理アセスメント、心理療法について説明できる。(DP1-2◎)                      (4) 基本的な実施方法を身につけている。(DP5-1、5-2◎)                      (5) 心理的特徴への配慮について考えることができる。(DP2-2)                      (6) 実施前、実施中、実施後の手続きを検討することができる。(DP5-2◎)                      (7) アセスメント・心理療法の発展的利用のあり方を検討することができる。(DP3-2)</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	40	60	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)				10			10	
知識・理解 (DP1-2)			10				10	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)				10			10	
関心・意欲 (DP3-1)				10			10	
関心・意欲 (DP3-2)			10				10	
態度 (DP4-1)								
態度 (DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)				10			10	
技能・表現 (DP5-2)			20	20			40	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>高齢者、認知症高齢者についての基本的知識を有し、それを基礎として高齢者、認知症高齢者を対象とする心理アセスメント、心理療法のより円滑な実施方法を身につけている。</p> <p>高齢者、認知症高齢者、またその家族、関係する専門職に配慮した心理アセスメント、心理療法の計画、実施、報告のあり方を検討することができる。</p>				<p>高齢者、認知症高齢者についての基本的知識を有し、それを基礎として高齢者、認知症高齢者を対象とする心理アセスメント、心理療法の基本的な実施方法を身につけている。</p> <p>被検査者、被援助者に配慮した心理アセスメント、心理療法の計画、実施、報告のあり方を検討することができる。</p> <p>高齢者、認知症高齢者への心理アセスメント、心理療法を臨床</p>				

高齢者、認知症高齢者への心理アセスメント、心理療法を臨床場面で用いる際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの円滑な利用のあり方を検討することができる。		場面で用いる際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの利用のあり方を検討することができる。		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 高齢期の発達的特徴について解説する。		予習:発達心理学2の高齢期分野の復習をしてくる。 復習:高齢期の発達的特徴を整理し、理解する。	60分
2	高齢者を対象とする心理アセスメント 高齢者の心理アセスメントを概観し、その意義と実際について解説する。 高齢者の心理アセスメントの基礎となる面接法、観察法の意義についてグループ討議を行う。	講義 グループワーク	予習:心理アセスメントの復習をしてくる。 復習:高齢者の心理アセスメントを整理し、理解する。	60分
3	高齢者の心理アセスメント演習① 認知能力のアセスメント(MMSE)の特徴、実施目的、実施方法を解説する。 ロールプレイを行い、実施方法の習得、援助者、被援助者体験をする。	講義 グループワーク	復習:MMSEの実施目的を理解し、実施方法を習得する。	60分
4	高齢者の心理アセスメント演習② 認知能力のアセスメント(HDS-R)の特徴、実施目的、実施方法を解説する。 ロールプレイを行い、実施方法の習得、専門職としての配慮について討議する。	講義 グループワーク	復習:HDS-Rの実施目的を理解し、実施方法を習得する。	60分
5	高齢者の心理アセスメント演習③ 認知能力のアセスメント(WAIS他)の特徴、心理社会的能力のアセスメント(MOSES他)の特徴、実施目的、実施方法を解説する。 ロールプレイを行い、実施方法の習得、専門職としての配慮、フィードバックの方法について討議する。	講義 グループワーク	復習:紹介したアセスメントの特徴について理解し、整理する。	60分
6	高齢者の心理アセスメント演習④ 行動観察によるアセスメント(東大式観察評価スケール他)の特徴、実施目的、実施方法を解説する。 ロールプレイを行い、実施方法の習得、専門職としての配慮、フィードバックの方法について討議する。	講義 グループワーク	復習:心理アセスメントのフィードバックの意義と目的を理解し、その方法について整理する。	60分
7	高齢者の心理アセスメント演習⑤ 生活機能のアセスメント、QOLのアセスメントの特徴、実施目的、実施方法を解説する。 ロールプレイを行い、実施方法の習得、専門職としての配慮、フィードバックの方法について討議する。	講義 グループワーク	復習:心理アセスメントのフィードバックの意義と目的を理解し、その方法について整理する。	60分
8	高齢者へのアセスメント まとめ これまで紹介した高齢者を対象とする心理アセスメントについて振り返り、整理する。	講義 グループワーク	復習:高齢者の心理アセスメントを整理し、理解する。レポートを書く。	60分
9	高齢者への心理療法の意義① 高齢者の心理的特徴、認知症高齢者の心理的特徴について解説する。	講義 ビデオ視聴	復習:高齢者の心理的特徴について理解し、整理する。	60分
10	高齢者への心理療法の意義② 介護の実際と高齢者の家族、および介護者の心理について解説する。	講義 ビデオ視聴	復習:高齢者の家族、介護者の心理について理解し、整理する。	60分

11	高齢者への心理療法① 高齢者を対象とする心理療法(回想法、心理劇、バリデーション、動作法)における、高齢者の理解のあり方、援助目的、援助方法について解説する。	講義 グループワーク	復習:高齢者を対象とする心理療法を理解し、整理する。	180分
12	高齢者への心理療法② 回想法の特徴、実施目的、実施方法を解説する。 個人回想法(ライフレビュー)のロールプレイを行い、実施方法の習得、被援助者・援助者体験をする。	グループワーク	復習:個人回想法の実施方法を理解し、整理する。	120分
13	高齢者への心理療法③ グループ回想法(レミニッセンス)の実施方法、事前準備について解説する。 グループに分かれ、学生を対象とする模擬回想法グループの実施に向けて、事前面接、情報収集、実施計画を立てる。	グループワーク	復習:事前面接、情報収集、実施計画を完成させ、模擬グループに向けた打ち合わせ、リハーサルを行う。	120分
14	高齢者への心理療法④ グループに分かれ、模擬回想法グループを実施する。援助者・被援助者体験を行う。 援助者グループは、事後評価(対象者、援助者自身の行動について)を行う。 被援助者グループは、高齢者に配慮した心理療法の計画、実施のあり方を検討する。	グループワーク	復習:事後ミーティングにてグループ活動を振り返る。活動記録をつける。	120分
15	高齢者への心理療法⑤ これまでの演習での体験を踏まえ、高齢者を対象とする心理アセスメント、心理療法を臨床場面で用いる際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの利用のあり方をグループ討議する。	グループ討議	復習:レポートを書く	180分
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

理解に必要な予備知識や技能	発達心理学Ⅱ、福祉臨床心理学Ⅰ、Ⅱ、発達臨床心理学を受講していることが望ましい。
テキスト	とくになし。必要に応じてプリントを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	黒川由紀子・斉藤正彦・松田修著『老年臨床心理学』有斐閣、2005 黒川由紀子著『回想法』誠信書房、2005 回想法・ライフレビュー研究会編『回想法ハンドブック』中央法規、2001 中島健一編『高齢者のこころのケア』小林出版、1999 Naomi Feil 著、藤沢嘉勝監訳『バリデーション』筒井書房、2001 中島健一著・成瀬悟策監修『痴呆性高齢者の動作法』中央法規、2001
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	ボランティアや実習での出会いや学びを整理しておくことが重要である。本授業では、ロールプレイやグループ討議を中心に授業を進めていくため、積極的な授業参加姿勢を期待する。
達成度評価に関するコメント	「発表」はグループワーク、ロールプレイ、シェアリング(ふりかえり)等の授業中の活動を通して評価する。 「レポート」は行動目標の達成を問う課題を出す。